

『昭和青年』

復刻版 全15巻

戦前期、日本国家がその勢力を恐れ、最大の

宗教弾圧が断行された新宗教「大本」。

おおもと

当時の日本社会の思想基盤等を知るための

貴重資料を復刻！



出口王仁三郎 (1871~1948)

大本教祖

人類愛善会初代総裁

大日本武道宣揚会総裁

昭和神聖会統管



不二出版

- 収録 1930年5月〜1935年12月
- B5判・A5判／上製／総約7,600頁
- 昭和5年の第1巻第1号から、昭和10年に起きた日本国家による第二次大本弾圧により発行停止になる第6巻第12号まで、および継続前誌『会友』創刊号を全15巻に収録。

●推薦 井上順孝 (國學院大學教授)

島園 進 (上智大学大学院実践宗教学研究科教授)

●本体揃価格 290,000円＋税

昭和青年 九月號 目次

村の立てなほし…………… 室伏高信

世界の農村問題…………… 桑原晋

國家的窮乏打開の道…………… 岡俊三

農村救済の神策…………… 田原象生

大本教に難局打開の根本策…………… 光舍生夫

出口王仁三郎氏を偲む…………… 藤原雄造

農村座談會

時局問題談柄…………… 内田良平

二つの線香と一つの強さ…………… 江田百三

滿洲に於ける農民の破綻…………… 士宏

舞臺問題 神示の自力更生あるのみ…………… 藤原雄造

北滿の水田風王郷…………… 風儀龍

大本農園の二期作に就て…………… 笹原義光

農村は晴々…………… 田盛義光

農村打開策三問…………… 出口王仁三郎

詠草 稲を詠ふ…………… 出口王仁三郎

農村實話

五度死線を越えて…………… 早美俊

寝舞漁村見聞記…………… 出口王仁三郎

英露禁止運動を提唱す…………… 神木泰昭

出口王仁三郎尊王廟…………… 神木泰昭

創作

内蔵之介を信頼せよ…………… 早美俊

青田に祈る…………… 出口王仁三郎

月照の園…………… 安藤唯夫

故山の夢…………… 一瀬歳雄

仙聖郷に晴れる…………… 出口王仁三郎

『昭和青年』は大本の内部組織「昭和青年会」の機関誌で、一九三〇（昭和五）年五月より刊行を開始した。当初は謄写版で、「青年信徒の多い支部部分所に配頒するつもりです。社会改告を目指して各地に活動を続けて居られる青年達が遠くから手を握り合ひ固く抱き合ふ唯一の丈夫な綱に育て上げたいと思ひます。」（第一巻第一号「編輯後記」とあるように、青年信徒の投稿（小論・詩・和歌・随筆等）や本部・支部関係記事を中心に構成されていた。その後、同年八月（第一巻第四号）より活版による刊行となった。

一九三二（昭和七）年一二月、「昭和青年誌」の発展に伴ひ題号「昭和青年」では読者層が一部青年に限られる弊あり今後全日本の大衆を把握するには不向の趣あるに鑑み」（第三巻第一号「急告」）、『昭和青年』から『昭和』に改題した。『昭和』は芦田均、松岡洋右、荒木貞夫、白鳥省吾等多くの著名人が登場、時事論壇が多くを占める雑誌となり、一九三五（昭和一〇）年一二月の第二次大本事件をきっかけに、同月刊行の第六巻第一二号が最後となった。

第二次大本事件とは、政府が初めて宗教団体に対し治安維持法を適用、日本近代史上最大の弾圧を強行した事件である。千本以上のダイナマイトにより京都の教団施設は徹底的に破却され、全国の本関係施設も破壊された。この事件は戦時中の法廷で大本に「無罪」判決が下りたものの、当時その結果を報じる記事は皆無に等しく、むしろ弾圧勃発時に新聞は大本を「淫祠邪教」と報じたことで、大本は戦後長く迫害と誤解にさらされた。

弊社は既に大本の外郭団体「人類愛善会」機関紙『人類愛善新聞』の復刻版を刊行したが、『昭和青年』『昭和』を復刻することにより、戦前の日本に最も影響を与えた宗教指導者の一人である出口王仁三郎のアジア全域を巻き込んだ宗教運動とその思想、当時の社会や民心の動向、近代日本社会の思想基盤等を複眼的・重層的に理解する手助けとなるであろう。

大本関連年表

明治4年(1871)	上田喜三郎、のちの教祖出口王仁三郎生誕(亀岡)。
明治25年(1892)	良の金神(国常立尊)が「開祖」出口なおに帰神し、綾部で大本開教。開祖の記した「筆先」は27年間1万巻におよぶ。
明治31年(1898)	喜三郎、高熊山(亀岡市穴太)で1週間顕幽両界の修行、救世の使命を自覚する。
明治32年(1899)	喜三郎、開祖に招かれ、大本に入る。
明治43年(1910)	喜三郎、出口家へ養子の手続きをおえ、出口王仁三郎と改める。
大正9年(1920)	日刊紙「大正日日新聞」の経営権を入手し再刊。
大正10年(1921)	第一次大本事件おこる。王仁三郎を大阪・大正日日新聞社で検挙、京都監獄未決監に収容。
大正12年(1923)	事件記事差し止めを解除、新聞・雑誌は一斉に大本を攻撃。 『靈界物語』刊行(全72巻、昭和4年4月完結)。
大正13年(1924)	宣伝・鎮魂・神憑の自粛を傳達。
大正14年(1925)	道院・世界紅十字会中華総会代表来綾、提携成る。
大正15年(1926)	朝鮮の普天教に代表をおくり提携成る。
昭和5年(1930)	王仁三郎蒙古へ出発(6月21日、バイナラで遭難)。
昭和6年(1931)	世界宗教連合会発会(北京、東洋本部を亀岡に)。
昭和7年(1932)	人類愛善会発会(綾部、10月1日「人類愛善新聞」創刊)。
昭和8年(1933)	新精神運動団体・白旗団との提携成る(ドイツ)。
昭和9年(1934)	5月「昭和青年」刊行開始。
昭和10年(1935)	在理会(聖道理善会)と提携(旧満州)。王仁三郎の娘婿・日出磨(人類愛善会総裁補)が人類愛善新聞社長、人類愛善会東洋本部長(のちのアジア本部長)に就任。
昭和15年(1940)	ラマ教(チベット仏教)と提携(旧満州)。12月「昭和青年」から「昭和」へ改題。
昭和17年(1942)	三陸地方震災に慰問使派遣、救援活動を行う。
昭和20年(1945)	人類愛善会を新精神運動団体としてブラジル国サンパウロ州政府が公認。
昭和21年(1946)	「人類愛善新聞」100万部頒布達成。
昭和23年(1948)	昭和神聖会発会、賛同者100万運動を展開。
昭和24年(1949)	昭和神聖会は「政治結社・宗教運動にあらず、国民精神運動」と全国へ通達。
昭和27年(1952)	カオタイ教(ベトナム)と提携。 第二次大本事件おこる。王仁三郎(松江)・三代教主補(亀岡天恩郷)ら幹部を検挙、京都市内8カ所の警察署に留置。 第一審判決、全員有罪、王仁三郎は治安維持法違反・不敬罪で無期懲役。即日控訴。 第二審判決、治安維持法違反無罪。不敬罪有罪。 大赦令公布により大本事件の不敬罪有罪判決解消、この年王仁三郎は事件による損害の国家補償を放棄。 「愛善苑」として再発足。王仁三郎苑主となる。 出口王仁三郎昇天(満76歳6カ月)。出口すみこが二代苑主就任。 王仁三郎昇天後、王仁三郎作楽焼茶盤が「耀盤」として美術界から評価される。教団名が「大本」に戻る。すみこのあとを受け、出口直日は三代教主就任。(現在は出口紅五代教主)出口王仁三郎・すみこの曾孫。

時代の変化が読みとれる格好の資料

井上順孝

大本は戦前に設立された新宗教の中でも、文書布教をきわめて重視していた教団である。『昭和青年』は一九三〇年に創刊され、三二年に『昭和』に改題されている。一九三〇年という年は、形式的とは言え創価学会設立の年であり、霊友会の発会の年であり、さらに出口王仁三郎に影響を受けた谷口雅春を教祖とする生長の家の立教年でもある。社会が全体主義に向かい、国際的にも緊張が高まる中で、宗教界にもそれを察知したかのような動きがあったのかもしれない。

この機関誌は大本の信者たちは何を考え、何を目指していたか。それを知る上でまたとない資料である。内容は宗教的主張、政治的主張、日常雑感、あるいは詩歌とさまざまである。それゆえに、当時の社会が何に関心を抱き、またどのような問題を深刻なものとしていたかを知る上でも、非常に参考になる。大本の機関誌ではあるが、社会全体の動向をも如実に反映した資料として見て差し支えない。

『昭和』は一九三五年十二月で廃刊になっている。この年の十二月八日に第二次大本事件が起こった。聖地亀岡がダイナマイトで爆破される徹底的な弾圧であり、機関誌の刊行など到底覚束ない状況に至った。それゆえ、この興味深い雑誌は六年ほどの期間しかカバーしていないのであるが、密度はきわめて濃い。大本という教団のみならず、まさに十五年戦争勃発の直前からその後の数年間の日本社会の雰囲気を感じ取る上でも、大きく役立つことは間違いない。

(國學院大學教授)

昭和初期の「青年」と「政治」から見た大本教

島園 進

宗教運動は時代の深層を照らし出す。近代日本の精神史を捉える際、新宗教の資料は欠かせない。なかでも昭和初期は重要だ。日蓮系の運動、修養道徳系の運動、天理教・金光教など教派神道系の運動など多々あるが、もっとも注目すべき運動は通称大本教、現在の宗教法人大本である。大本が注目に値する運動である理由の一つは、その政治性にある。

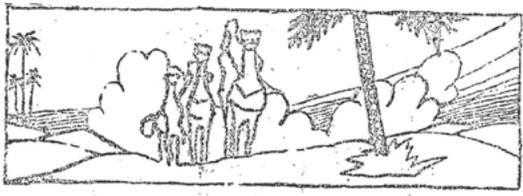
皇道主義的な言説は大正一〇（一九二一）年の第一次大本教事件を機に皇道大本から大本へと改称したが、昭和八（一九三三）年、再び、皇道大本を名乗るようになる。「皇道」を名乗るかどうかは、政治的関心が大きなものであるかどうかを測る指標となる。第一次大本教事件後、出口王仁三郎は新たな聖典となる『靈界物語』を著して「聖師」としての宗教的指導権を確立する。そして昭和三（一九二八）年、その出口王仁三郎に「みろく下生」したことを祝うみろく大祭が行われる。

ガリ版刷りの『昭和青年』が刊行されるのはそのすぐ後で、当時の大本青年の希望と建設意欲にあふれた文章が連ねられている。しかし、再び皇道大本を名乗る頃までには活版となり、『昭和』と誌名を改め、当時の有力論客や政治家、軍人、学者らが誌面を飾るようになる。内田良平、荒木貞夫、ラス・ビハリ・ボース、松岡洋右らの名も見え、勇ましい言説も増えてくる。

この復刻版は、昭和初年から昭和一〇年の第二次大本教事件に至る時期の宗教教団、大本の実情を知るのに欠かせない。さらに、宗教史のみならず政治史、社会史、文化史の観点からも見逃せない貴重な資料である。

(上智大学大学院実践宗教学研究科教授)

▼第1卷第6号 (1930年11月)



△天恩郷だより
△各部だより
△全国青年信使諸君へ!
△編輯後記

△昭和青年會々報
△通信欄

文苑

△秋、マツチの兵隊、落葉 奥村敏郎
△小島、小春日 サンタ・イ・チョウ
△神祕 新正巳

△一日所感 廣瀬雄風
△秋にうたへる、そりくに 池島無風
△瑞雲真如聖師の御歌に感へて 金剛系密

創作

或これ一面
働ける體戀
働けば働けるんだ!! 松本良淑
退屈しのぎ 西崎生
風 ナンバ・セイイチロ
くにはる



隨筆

□ナニやらカヤら 東京 謝長讚
□感激の生活 村松正巳
□嫌ひだ、頭を突つかれるのは 南波清一郎
□偶感 松本生
□精神文明とは 穂小路景則
□秋の夕に獨居の部屋で感じた極の記

□疑ひ 佐藤美知
□呼々泣いた十月十七日 飯川生
□信仰 仁科玉水
□熱情の下に 陽之助
□天恩郷にて 清水健生
□日出露微 奥村敏郎
上村貫照

論壇

大本運動の歴史的大使命
吾等のみ新時代を繼承する

出口瑞月
出口宇知麿
南陽之助
中井勤

昭和青年十、十一月號目次

◇モットー
◇愛書の読者の下に

吾等の主張
昭和青年に與ふ
會長就任の挨拶

▼第4卷第1号 (1933年1月)



亞細亞聯盟結成への提議

—皇道こそ唯一のもの—
—第一義的のもの—
—強調を先づ第一に—
—亞細亞民族起つ—
—亞細亞聯盟の提唱—

名士眞日本建設
解答

男女の眞理
自力更生不可能?
印度の志士に映じた亞細亞聯盟
出口王仁三郎氏遭難當時の憶ひ出
航空記録より
日滿婦人聯合大會傍聴記
出淵駐米大使の日米戦争観
忘れられる人々
童話劇春の樂園

越川彌榮
吉原伊都彦
速志英春
速志英春
玉井莊雲
長谷川太郎
村松なを
速志英春
志田十三三

昭和新年號目次

口一新年號の分列
口一年號の分列
口一年號の分列

若さと光
編輯後記

室伏高信
出口日出麿
大國以都雄
水守龜之助
ラス・ビハリ・ポース
中平亮
出口三千麿
神本泰昭
出口王仁三郎
出口直日
白鳥省吾

新日本の青年心得書
大和民族と曙の亞細亞
青年英雄時代
三島隆太郎 學國更生を聞く
新憲法は印度に自由を與へるか
歴史の舞臺は廻る
眞日本建設の烽火
昭和維新に對する一考案
詠草 舉國更生
野がへりの小女より龍膽をもらふ
詩 天恩郷にて

『昭和青年』『昭和』

復刻版
全15巻

● B5判・A5判／上製／総約7、600頁

● 昭和5年の第1巻第1号から、昭和10年に起きた日本国家による第二次大本弾圧により発行停止になる第6巻第12号まで、および継続前誌『会友』創刊号を全15巻に収録。

● 原本提供 宗教法人大本本部 教学研鑽所

● 推 薦 井上順孝（國學院大學教授）

島 蘭 進（上智大学大学院実践宗教学研究科教授）

● 本体揃価格 290,000円＋税

● 刊 行 第1回配本（第1～3巻）2017年12月刊
本体揃価格 92,000円＋税
ISBN978-4-8350-8101-4

第2回配本（第4～7巻）2018年5月刊
本体揃価格 76,000円＋税
ISBN978-4-8350-8105-2

第3回配本（第8～11巻）2018年11月刊
本体揃価格 76,000円＋税
ISBN978-4-8350-8110-6

第4回配本（第12～15巻）2019年5月刊
本体揃価格 76,000円＋税
ISBN978-4-8350-8115-1

● 近刊予定 Ⅱ 『昭和青年』『昭和』解説（對馬路人）

総目次・索引

● 関連図書のご案内 ●

● 人類愛善会 発行（大正14年～昭和11年刊）
人類愛善新聞 全5巻・別冊1

● 別冊 Ⅱ 解説（對馬路人）

● 体裁 Ⅱ A3判／上製／総1,302頁

● 推薦 Ⅱ 井上順孝／島蘭進／原武史／ナンシー・ストーカー

● 価格 Ⅱ 揃本体175,000円＋税

『人類愛善新聞』とは、大正一四年に発会した大本の外郭団体である人類愛善会の機関紙であり、その読者は台湾、満蒙、南洋、南米にまで広がり、昭和九年には百万部の発行部数を超えるに至った。

復刻された『人類愛善新聞』により、戦前の日本に最も影響を与えた宗教指導者の一人である出口王仁三郎のアジア全域を巻き込んだ宗教運動とその思想、当時の社会や民心の動向、近代日本社会の思想基盤等を理解する手助けとなるであろう。



● 表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話 03-3812-4433
ファクシミリ 03-3812-4464
振替 001600294084